

第26回 現代世界の地誌的考察

■■ 現代世界の諸地域編 ■■

世界のさまざまな地域を見てみよう

～ 中国 (1) ～

監修・講師

高橋 宏

学習のねらい

今回は、日本にとって重要な隣国である中国の自然・人々の暮らしと経済について学ぶ。中国は世界最大の人口を抱え、国土面積は日本の25.5倍ほどあり、地理的にも多様な自然環境を抱え、56の民族からなる多民族国家である。1990年代以降の経済発展は目覚しく、現在の国内総生産（GDP）は世界第2位である（2018年）。工業発展に伴い、世界との貿易・投資・人的交流が盛んで、日本にとって貿易総額が一番大きな相手国である。

今回のポイント

- 中国の自然と人々の暮らし
- 中国の経済成長と産業の発展
- 中国の工業化

■■■ 中国の自然と人々の暮らし ■■■

中国の地理的な特徴は国土面積が広大で、およそ960万km²、世界第4位の広さを持つ。これは日本のおよそ25.5倍で、ヨーロッパ全域とほぼ同じ広さである。そのため、地域による自然条件や気候の違いが大きく、例えば、東部の北半分の東北・華北地方は、ケッペンの気候区分では、ほぼ亜寒帯に分類される。東部の南半分の華中と華南は温帯で、日本の本州から南とほぼ同じである。また西部の北側は乾燥帯で、世界有数の砂漠であるタクラマカン砂漠があり、真夏の平均気温は50℃近くになり、年間降水量は20mmほどしかない。

人々の暮らしも多様であり、例えば東北部では、栽培される作物は寒さと乾燥に強い小麦やトウモロコシが主な農作物で、主食は小麦粉を原料とした麺やマントウ、ギョウザなどの粉食が多い。また、西部の乾燥地域では、ブドウや綿花が主な作物であり、さらに高原地帯のステップでは、羊の放牧が行われている。

中国の56の民族分布は地域により異なり、暮らしや言語・文化・風俗などが多様である。経済発展に伴う近代化により、民族の違いを超えた生活文化などの共通化の一方で、各民族の伝統的な文化や暮らし、そして言語などを尊重していくことが、民族間の公平性を保っていくこととともに課題である。

■■■ 中国の経済成長と産業の発展 ■■■

中国は、中華人民共和国として1949年の建国以降、社会主義体制の下で計画経済原理を

基本として経済運営を行ったが、経済の非効率・経済運営の混乱・政治闘争などの問題を抱えていたため、経済発展の実現が遅れ、所得水準も低いままにとどまった。しかし、1978年末に「改革開放政策」（国内経済体制の改革と対外的に国を開いていくこと）を開始し、「農業・工業・国防・科学技術の現代化」（4つの現代化）が国家目標とされてから、中国経済は発展を開始した。その要因は、市場メカニズムの採用・外国企業の受け入れと技術導入・輸出促進などの政策である。

その後、1989年に民主化を求める人々を武力弾圧により制圧した天安門事件のために、諸外国からの制裁を受けて経済的な困難を抱えた時期もあったが、92年以降の改革開放政策と市場経済化の推進方針を受けて、経済発展が加速し、高度成長が維持された。例えば、1人当たりの可処分所得は1978年と比べて2017年には実質23.8倍へと拡大し、年平均8.5%の増加を示した。

中国の経済成長が急速に進んだ結果、2010年にはGDPで日本を抜き、アメリカに次ぐ世界第2位となった。

■■■ 中国の工業化 ■■■

中国の経済成長は市場原理導入や製造業部門における外資導入などにより推進され、その後の所得水準の高まりによりサービス部門の成長も進んだ。これを産業別の就業比率の変化で見ると、工業化およびサービス化といった高度化が著しい。例えば、1978年には農業を中心とする第1次産業の就業比率が70.5%であったが、2000年には50.0%に、2016年には27.7%に低下している。製造業などの第2次産業では、同じ時期に17.3%、22.5%、28.8%へと増加し、さらにサービス部門の第3次産業では同じく12.2%、27.5%、43.5%へと大幅に増えている。

中国は、改革開放後の貿易自由化・直接投資受け入れの推進等で工業化を加速するとともに、工業製品の加工貿易を展開し、「世界の工場」と呼ばれるようになった。2001年に世界貿易機関（WTO）に加盟してから貿易の拡大は加速し、2009年にドイツを抜いて、輸出では世界第1位、輸入では世界第2位となり、貿易総額ではアメリカに次ぐ第2位となった。その後も、1位あるいは2位の地位を維持しつつ、輸出製品は機械・電機および鉄鋼・金属を中心に高度化を遂げている。